



外国人医療

～今 東京の医療機関に求められること～

東京都医師会理事 島 崎 美奈子

<はじめに>

都内の観光スポットは年々増加する外国人観光客であふれている。その8割をアジア各国からの旅行者が占めている。外国人が日本の豊かな自然や完成された工業製品に高い関心を持って来日することは国際関係としても大変喜ばしいことで、政府も観光振興に大きな期待を寄せていることは周知の通りである。商業施設や交通機関で中国語や韓国語のアナウンスを耳にするのはもはや日常だ。

平成28年の訪日外国人は年間2403万9千人である（図1）。東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年には倍近い4000万人を目標としている。訪日外国人の2～4%が何らかの

疾病で医療機関にかかるという統計を踏まえ、外国人医療の整備が早急に求められている。観光目的以外でも、日本の高度な医療技術と世界に類を見ない整備された医療制度、リーズナブルな医療費を求めて富裕層に限らず多くの外国人がメディカルツーリズム・ヘルスツーリズムで日本を訪れている。

一方、東京都の在留外国人は平成29年1月1日現在で48万6千人であり、いずれも増加傾向にある。平成24年から外国人も住民基本台帳制度の対象になったため、3か月以上日本に滞在する外国人は国民健康保険に加入することになった。そのため在留外国人患者はほとんどが保険証をもって受診するようになってきたが、経済的理

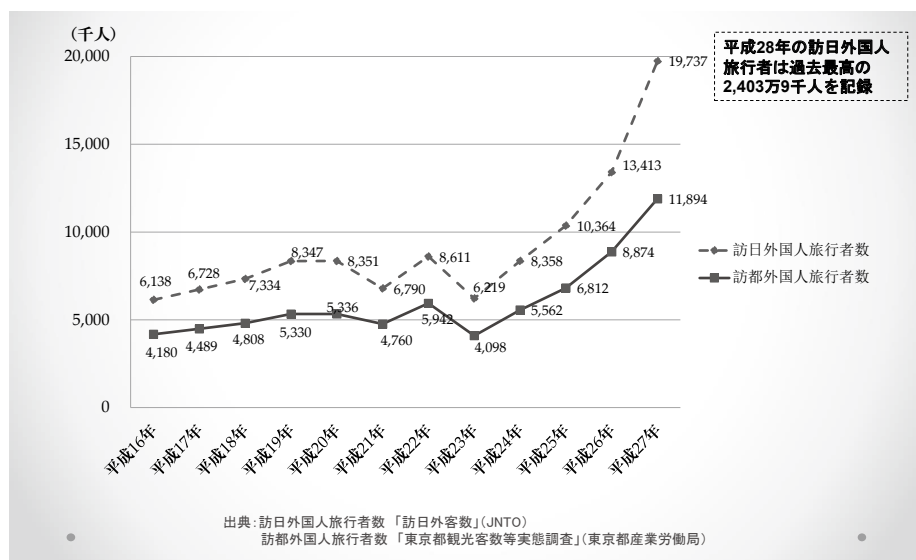


図1 訪日・訪都外国人旅行者数の推移

由で医療機関にかかるのが遅れ重症化する事例も多いという。

急増する外国人の対応医療では言語・生活習慣・宗教の違い、各国の医療制度の根本的な相違、医療費請求の問題、海外保険会社との事務的作業、医事紛争の対応など医療機関にかかる負担は大きい。著者は都心で眼科クリニックを開設しているが、年々、訪日・在日外国人の受診を経験することが多くなっている。旅行者の多くを占める中国や東南アジアの患者への対応は言葉の障害はもとより、日本の医療制度を知らない患者に対し、問診・検査や疾病、投薬の説明・海外旅行保険の書類作成・支払まで、受付窓口での対応も含め手間と時間がかかり日常の診療に支障をきたす場面も多く経験する。生活習慣や宗教上の相違にも留意しなければならない。

すでに外国人の来院が多い医療機関のみならず、近い将来確実に外国人患者が増加することが予測される。東京都の医療機関にとって、受付から調剤までの速やかで正確な多言語による対応、生活文化の相違によるインフォームドコンセントの障害を解決する対応マニュアル、海外旅行保険等書類の記載や、未収金リスクに備えた医療費請求方法の検討など整備すべき課題は多い。外国人医療への国の取り組みを把握し、医療界として何をすべきかしっかりと提言し、東京都と協力してこれらの課題を解決していきたい。

<国の取り組み>

経済産業省は日本再興戦略 2016（平成 28 年閣議決定）にもとづき、日本の優れた医療機器・サービスを各国のニーズに応じて提供するアウトバウンドと日本国内での医療を望む外国人患者の受け入れを促進するインバウンドの両面で推進している。インバウンドでは医療の国際展開を促進するために外国人患者受け入れ等をサポートする企業の認証や、外国人患者の受け入れに関し意欲と能力のある国内医療機関を『日本国際病院（仮称）』として海外にわかりやすい形で発信するなど、外

国人患者のための広報、国内医療機関における外国人患者の受入れ実態調査や医療通訳講座の開設、また中国での医療渡航関連の展示会などの海外イベントにブースを出展するなど積極的に取り組んでいる。

厚生労働省は、外国人が安心して日本の医療サービスを受けられる体制を充実させることを目的に、医療通訳・医療コーディネーターの配置支援、院内資料の多言語化等への支援、外国人患者受入れ医療機関認証制度（JMIP）の認証病院の拡大などの対策を始めた。2020 年までに、訪日外国人が特に多い地域を中心に『外国人患者受入れ体制が整備された医療機関』を現在の 5 倍にあたる 100 か所で整備するとしている。今年度までに 40 か所程度の整備が目標とされている。

国土交通省観光庁は、『明日の日本を支える観光ビジョン』のもと、すべての旅行者がストレスなく快適に観光を満喫できる環境づくりとして、救急患者にも十分対応できる外国人患者受入体制の充実を目的に、訪日外国人に対し医療機関情報の提供、医療通訳やキャッシュレス診療サービスのついた保険商品の加入を促進している。また、医療と共に日本の豊かな自然や食事を提供する新しい観光形態として、メディカル・ヘルスツーリズムを推進している。

<東京都の取り組み>

2020 年に向けて急増する訪日外国人は、その多くが東京に滞在すると予想されている。外国人旅行者に対する医療の整備は東京都の喫緊の課題だ。旅先で言葉の不自由を感じる外国人旅行者は、圧倒的に救急対応を求めることが多い。東京大学医学部附属病院国際診療部では、外国人旅行者の患者の 9 割が救急外来を受診する。そのうち 6 割が救急車を利用、1 日の観光を終えてから夜間深夜帯に受診することが多く、胃腸炎、風邪、転倒による外傷などの軽症が 6～7 割以上を占めるといふ。

本来の 3 次救急患者への対応に問題が生じてい

る現況を踏まえ、都内の医療機関に、特に軽症の外国人患者を受け入れるための整備が求められている。東京都では多言語による医療情報サービスの提供（外国語で受診できる医療機関や日本の医療制度について相談員が電話で案内）や、救急通訳サービス（救急で来院した外国人患者に対し電話による通訳を実施）を実施している。

①東京都医療機関案内サービス『ひまわり』
Webサイトの充実

外国人患者の増加を見込み、サイトの機能改善や多言語化（16言語）スマートフォン対応などを検討。

②緊急通訳サービスの対応時間拡大

平成29年5月1日から医療機関向け救急通訳サービスの英語・中国語の対応時間を平日17時から翌朝9時まで、土日祝日を9時から翌朝9時までに拡大。

③医療機関への外国人患者受入れ体制整備支援

一般財団法人日本医療教育財団が実施する外国人患者受入れ医療機関認証制度（JMIP）の審査を受ける医療機関に期限付きで審査料の補助や、院内資料やホームページの翻訳、案内表示の多言語化など外国人患者の受入れ体制整備に係る費用の補助を実施。

平成28年2月に、東京都福祉保健局は外国人旅行者の情報収集の実態やニーズを把握し、今後の施策の方向性を検討する目的で、『外国人旅行者等への医療情報提供に係る調査』を都内医療機関、宿泊施設や旅行者を対象にアンケート調査を実施した。

対象になった医療機関は都内の20床以上の医療機関646箇所、回答数は315件、回答率48.8%である。全体の74.6%が外国人患者（在留や訪日）の受入実績があると回答している。通訳に関しては病院内で外国語ができるスタッフの配備、日本語ができる友人や家族の付添いを依頼するなど対応しているが限界があり、東京都の電話による救急通訳サービスの充実や、低コストで

簡易な、しかも専門性の高い医療通訳の精度の向上が求められている。診療費については、診察前に支払方法を確認している（40%）、概算見積もりを提示（14.4%）、診察前にデポジットを受ける（12.1%）、クレジットカード対応（48.9%）、など多くの医療機関が様々な方法で未収金のリスク管理をしているが、半数以上は特別な対応をしていないこともわかった。平成29年2月に開催された東京都福祉保健局主催セミナー『平成28年度医療機関における外国人患者対応支援研修』には、雪にもかかわらず医療関係者を中心に263人の参加者があった。医療関係者の外国人対応医療への関心の現れと言える。

<今後の課題>

以上のような状況を踏まえ、東京都医師会では国や東京都と連携して外国人医療の取り組みを始めた。

- ①外国人患者受入れ医療機関の現況の把握と整備
- ②医療機関の役割分担を含めた医療提供体制の構築
- ③外国人患者対応支援研修の開催等、医療機関への支援
- ④東京消防庁・宿泊施設など関係機関との連携
- ⑤医療通訳の充実
- ⑥外国人向け情報サービスの拡充
- ⑦医療費未払いや医事紛争に対する法的整備

東京都福祉保健局は外国人患者への医療提供体制構築に向けた課題・今後の取り組みを検討するためのワーキンググループを立ち上げた。東京都保健医療計画の記載事項や現場に必要なマニュアル作りなどを検討していく。東京都医師会では行政と積極的に協力して、施策立案の段階から医療現場の会員各位の声を生かしていきたい。

参考文献 / URL

- 1) 国土交通省観光庁統計情報・白書

<http://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/index.html>

- 2) 山田秀臣・田村純人 東京大学医学部附属病院国際診療部 メトロポリタン都市、Tokyo からみる外国人患者の課題: 2020 年に向けて『医学のあゆみ』 Vol. 258 No2 2016. 7. 9
- 3) 一般財団法人 日本医療教育財団 外国人患者受入れ医療機関認証制度
Japan Medical Service Accreditation for

International Patients (JMIP)

<http://jmip.jme.or.jp/>

- 4) 厚生労働科学特別研究事業『外国人患者受入れのための病院用マニュアル案』

http://www.twmu.ac.jp/Basic/int-trop/_userdata/sympo_001.pdf